ある日の育児日記から (83)

佐藤　和代

有は五歳。今「文字」にこっていて、毎日何やら書きちらしています。このあいだ保育園でたこを作ってきましたが、有の作品を見てびっくり。大きな字で「O157」と書いてある。他の子のたこはみんな楽しい絵が描いてあるのに…。

このたこを見て思い出しました。学生の頃、ある〝文字を教えない〟主義の保育園の公開保育を見にいった時です。先生が、子どもたちの色彩豊かな絵を何枚か見せたあと、一枚の絵を出してきました。そこには、文字らしきものがちらばっていて、申し訳程度に絵がそえてありました。さっきの絵と比べると、ずいぶん貧弱な作品です。

「ね、文字を教えると、絵がこうなってしまうんです」と先生。

そのときは、うんうんなるほど、と思った私でしたが、今、有のたこを見たら、少し違うんじゃないかと思い始めました。有のたこも、あのときの文字まじりの絵も、子どもが今興味のあることをそのまま素直に描いただけ。絵として貧弱だからダメな作品、と決めていいのでしょうか。子どもの絵はのびのびカラフルでなければ、なんて、描いている方にしたら迷惑な押しつけですよね。

といってもまあ、O157はちょっと…。もう少し楽しい文字書いてよ、有！